

# 横浜市教育データサイエンス・ラボの始動！

—GIGA端末・26万人の児童生徒データから新しい価値の創出を目指して—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問  
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

ニュース解説 + 連載をフォロー

## 横浜教育データサイエンス・ラボ始動、子ども26万人データ活用は算数と心の不調から

大谷 晃司 日経クロステック/日経コンピュータ

2024.09.26  
有料会員限定

[f](#)
[X](#)
[B](#)
[P](#)

[📄](#)
[🖨](#)
[✎](#)

全1232文字

「プラットフォームの企業が集めた情報はプラットフォームの企業の価値になってしまう。私たちが子どもから預かったデータは誰のものか。子どもに価値を返す仕組みをどう設計するかが重要」。横浜市が教育データの活用に乗出す意義を横浜市教育委員会の下田康晴教育長はこう話す。

2024年9月20日、横浜市は児童生徒約26万人の教育ビッグデータを活用・分析するための枠組みである「横浜教育データサイエンス・ラボ」を始めた。教員、大学、企業が知見を持ち寄り、教育データから新たな価値を生み出して児童生徒や教職員に還元することを目的に設けられた研究の場である。



「横浜教育データサイエンス・ラボ」のイベント登壇者。前列中央が横浜市教育委員会の下田康晴教育長  
(撮影：日経クロステック)

『日経BP』 2024年9月26日

<2024年9月20日に第1回イベント>

## 横浜教育データサイエンス・ラボの始動

- GIGA端末 26万人の児童生徒、2万人の教職員のデータを活用して、新しい価値を創出

- Study Navi

CBT-IRT型学力・学習状況調査

デジタル学習ドリル

授業アンケート

健康観察（こころのチェック、介入支援プログラム with横浜市立大学医学部）

- 企業、大学（有識者）との連携

内田洋行、コニカミノルタ、NTT東日本など

横浜国立大学、名古屋大学、慶應義塾大学など

**No213**

# 横浜市小中学校の子ども一人 ひとりの学力の伸長を可視化

IRT型学力・学習状況調査の開始

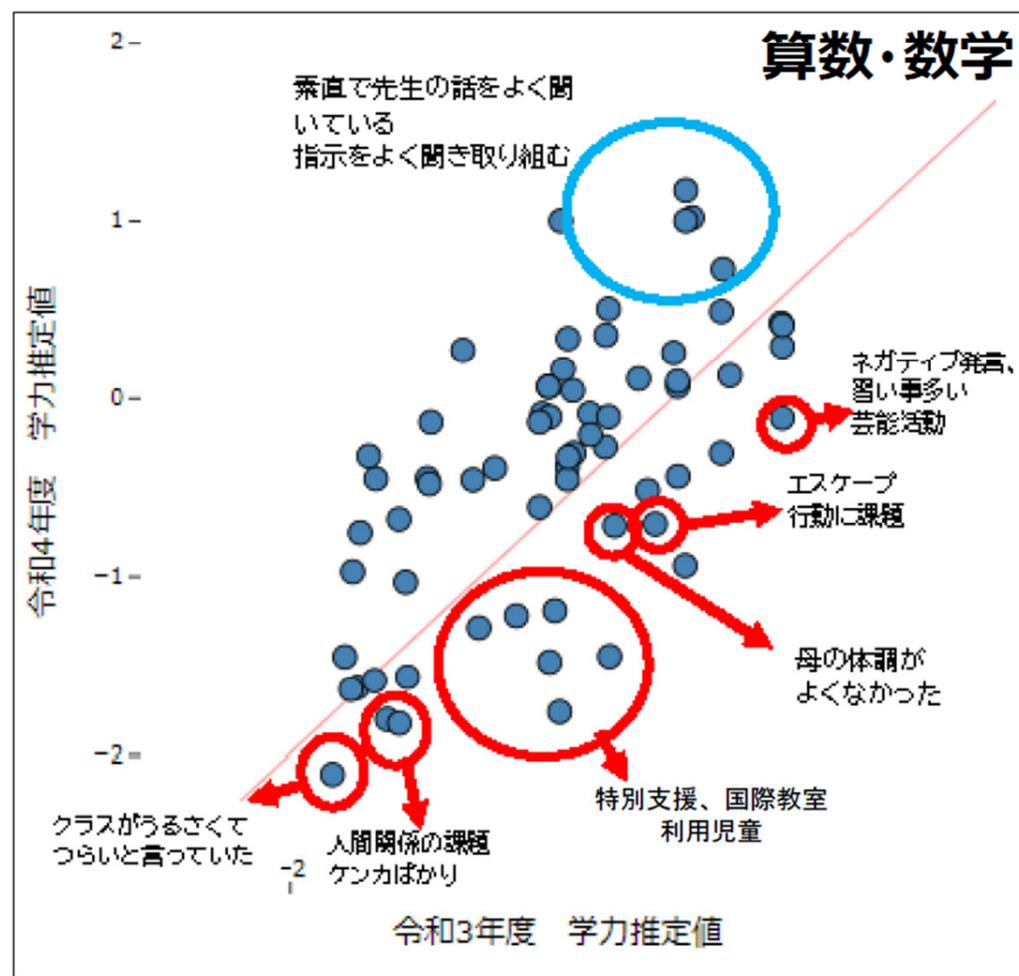
**山本朝彦先生**

**(横浜市教育委員会教育課程推進室長)**

溝上慎一の教育論「動画チャンネル」(基本的に毎週水・土に配信しています)

# 伸び悩んでいる子を見てみると

## 分析チャート 「個人チャート」から



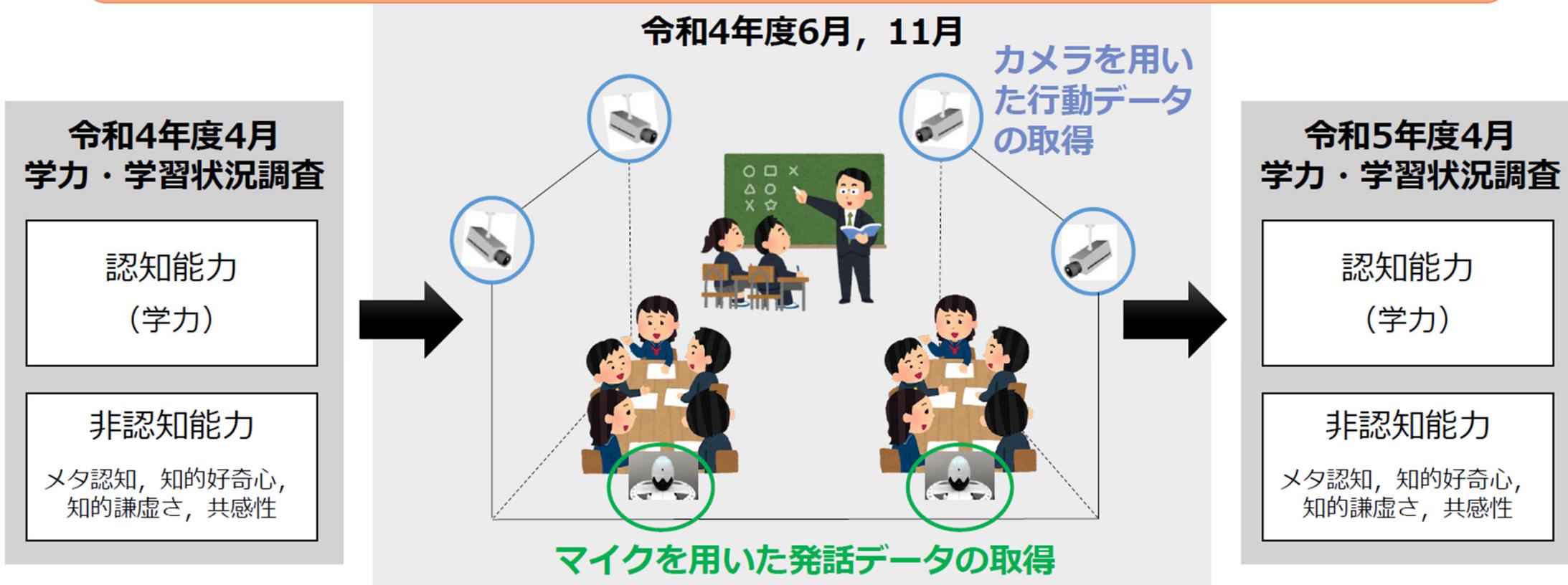
- ・特別支援、国際教室利用児童が多い  
→支援はしているが
- ・学習に向かう意欲が低い児童
- ・家庭の支援が乏しい
- ・行動に課題あり
- ・母集団の安定が必要
- ・認められたい、ほめられたい

さらにどんな支援ができるか？

指導案にチャートを添付し、児童の実態把握、支援策を考える一助とする

## 社会情動的コンピテンシー調査研究について

- 学力と社会情動的コンピテンシーの関係について検討
- 学力・社会情動的コンピテンシーの成長を促す教師の指導, 児童生徒の学習について検討



# メタバース空間で発展する生成AI

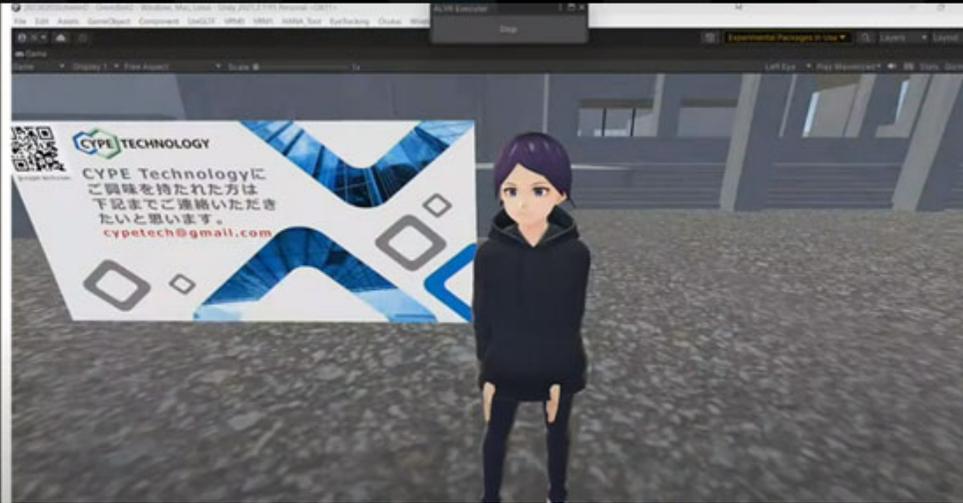
文科省Scheem-D（高等教育のDXプロジェクト）

**No144**（2023年2月3日実施分の振り返り）

# Startup Pitch & Conference

のアーカイブのご案内

— 体験量増加とメタバース空間での資質能力？ —

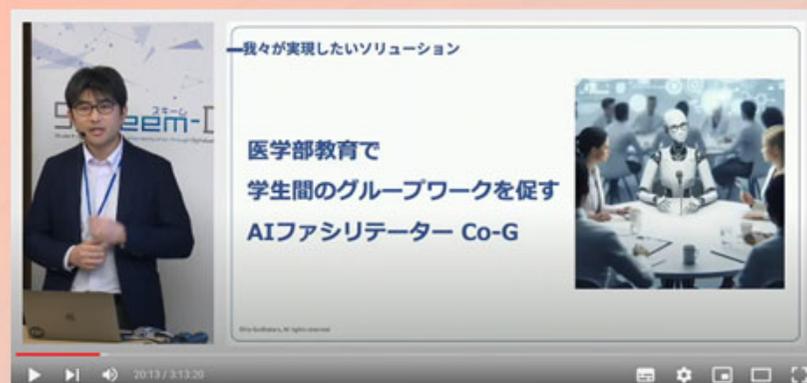


No249

(文科省主催 Scheem-Dイベント 2024年2月9日アーカイブ)

# 教育DX

学校教育や個人の学習  
で用いられる生成AI等  
のDX技術の未来予測、  
実践の開発例



溝上慎一の教育論「動画チャンネル」(基本的に毎週水・土に配信しています)

移動の **いらない** 移動手段

**GENCHI**

— ゲンチ —

場所という制約からの

解放に挑戦

# 体験量の増加

- ふだん行けないところへ  
バーチャル空間で体験

- 高度情報化社会の中で情報処理もままならない中で、さらに体験量という情報量が加わり、人びとはこれからどのように認知を情報処理していくのか？

## ビジネスシーンでの活用イメージ



建設現場の  
遠隔臨場



工場設備の  
保守・点検



複数拠点の  
マネジメント



海外・交通不便  
地域の視察



人材採用時の  
社内見学



一拠点から  
複数店舗の接客



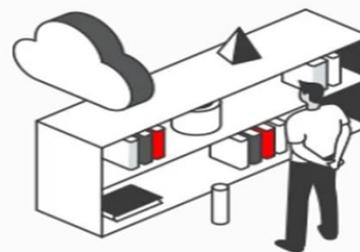


# cluster エデュケーション

教育機関向け公式ページ

日本のICT教育を加速する  
バーチャル空間の可能性

ICT in Education  
X  
Virtual



学校教育やデジタル人材育成などで大きく活用される可能性を持つ「バーチャル空間」  
(メタバース) すでにさまざまな教育現場や教育機関などで広く活用されています。

バーチャルでに参加にとどまらず、そこでの人同士の交流を通して  
バーチャル空間上での新たな資質・能力が問われてくる？



## 教育的に問われること

- 体験量の増加
- 他地域・異文化・バーチャル空間での新たな関係性の増加  
→ 「話す」「聞く」「人間関係」等の資質・能力
- 将来的には表情やジェスチャーなどの相互性の質も加わってくるか？

東京都立大、英会話メタバース「fondi」を用いた実証実験を開始(2024年5月7日)

## 今後に向けて

- データによる可視化が教育実践の新しい価値を創造するよう  
うに
- 大量の可視化・分析されたデータを現場が使いこなせるよ  
うに

この課題を乗り越えて、教育DXがこれからの教育を発展させていくことを期待しています！

ご視聴有難うございました  
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。  
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

